

## ・「シラカンバの樹皮も材も利用しよう」

**Q:** 樹皮の採取場所について、当該採取地は美深町で道北であるが、他地域（道央、道東、道南）で採取を試みたのでしょうか？

もし、他の地域で採取したのであれば、品質等に違いがあるのでしょうか？他の地域に比べ道北（美深）がよかったのか？

**A:** 美深で調査を行った理由は、

- ①外樹皮の採取後数年経った個体が複数ある。
- ②採取後の年数がはっきりしている。

という二つの条件がそろっていたことに加え、所有者の方にご協力いただけたからです。

美唄については、林業試験場の実験林があることと、道有林（空知総合振興局森林室）のご協力が得られたからです。

今回の調査では、道北と道央以外では樹皮は採取していませんが、これまでの結果から、品質については地域差よりも個体差（健康状態や立地環境などによる）のほうが大きく影響していると考えています。

しかし、採取適期については、気候の違いにより地域間に違いがある可能性は高いと思います。

**Q:** 剥皮のしやすさ＝品質のよさという理解でいいですか？

**A:** 仰るとおりです。

6月下旬から8月上旬の頃は、外樹皮と内樹皮の間にあるコルク形成層という組織が活発に細胞分裂をする時期に当たります。

コルク形成層で形成されたばかりの未発達な細胞の層が壊れることで内樹皮と外樹皮が分離する、剥がれると考えています。

剥皮がしやすいということは、コルク形成層が広い範囲で活発に活動しているために剥がれやすく、工芸に適した品質のよい樹皮が採取できるということです。

**Q:** 冬期での採取であれば樹体の回復が早そうなイメージです、そこらへんの見解があれば。

**A:** 冬期はコルク形成層が活動しておらず、外樹皮と内樹皮はしっかりと付着していますので、工芸に適した状態の外樹皮を採取することはできません。

採取できるのは外樹皮の最も外側の白い部分で、いわゆるガンピと呼ばれるたき付けに使える程度のものです。

外樹皮のほとんどが幹の方に残るため、樹体への負担が少なく回復は早い可能性があります。採集した樹皮は工芸用には利用できません。